

## 令和2年度第2回徳島県南部地域政策総合会議 会議録

### 1 開催日時

令和3年3月15日（月）午後3時15分から午後4時55分

### 2 会場

徳島県南部総合県民局 阿南庁舎 大会議室

※WEB会議システム併用

### 3 出席者

#### (1) 政策総合会議委員

##### ① 地域住民代表委員 13名（6名欠席）

青木委員(WEB) 石本委員 尾崎委員 兼松委員 小林委員(WEB) 酒井委員 坂本委員  
武市委員 武知委員(WEB) 轟委員(WEB) 林委員 平井委員 町田委員

##### ② 県委員 1名

木具南部総合県民局長

#### (2) 管内市町長、副町長 5名

表原阿南市長 坂口那賀町長 枅富牟岐町長(WEB) 影治美波町長 三浦海陽町長

### 4 会議次第

#### (1) 開会

#### (2) 議事

「徳島県南部圏域振興計画」令和3年度の取組方針について

「徳島県南部圏域振興計画」及び「南部圏域課題解決プラン」の変更案について

#### (3) 意見交換

#### (4) 閉会

### 5 配付資料

- ・ 徳島県南部地域政策総合会議設置要綱
- ・ 徳島県南部地域政策総合会議委員名簿
- ・ 令和2年度第2回徳島県南部地域政策総合会議配席図
- ・ 資料1 「南部圏域振興計画」令和3年度の取組方針
- ・ 資料2 南部圏域振興計画および課題解決プランの見直し概要
- ・ 資料3 徳島県南部圏域振興計画（変更案）
- ・ 資料4 徳島県南部圏域課題解決プラン（変更案）

## 6 議事概要

[司会]

ただ今から、令和2年度第2回南部地域政策総合会議を開会いたします。

本日は、13名の地域住民代表委員の皆様及び管内市町の市長、町長様にご出席いただいております。議事進行は、会議設置要綱第5条第2項の規定により木具南部総合県民局長が行います。

[局長]

早速ですが議事に入ります。

本日は2つの議題がございます。議題1「『徳島県圏域振興計画』令和3年度の取組方針について」、議題2「『徳島県南部圏域振興計画』及び『南部圏域課題解決プラン』の変更案について」でございます。これら2つの議題は互いに関係するものですので、まとめて事務局から説明申し上げます。

[事務局]

(資料1、2により説明)

[局長]

ありがとうございました。ただいま説明のありました、「令和3年度の取組方針」、「振興計画及び課題解決プランの変更案」について、ご意見・ご質問があればお願いします。

[A委員]

資料3のp3、南海トラフ巨大地震の津波到達の高さ、牟岐町は13.4mとありますが、私たち住民のマップでは9.8mとなっているんです。これは沖合30kmの部分でしょうか。

次にp36「ウ 安全・安心な妊娠・出産への支援」とあります。これは、海部病院において寄付講座が成り立っているんですが、やはり医療体制を整えなければ安全・安心は叶わないと思うので、その文言を入れてはどうか、検討していただきたいと思います。

最後に、資料4のp6の2、「#8000」などありますが、「阿波あいネット」も入れてはいかがでしょうか。

以上、資料に関して質問させていただきました。

[局長]

ありがとうございました。3点についてご質問並びにご提案いただきました。このことについてすぐにお答えできることは。

[地域創生防災部]

津波の高さについてでございます。

これは牟岐町沿岸部で、最高点の津波高ということで表記しております。牟岐町のエリア、その付近の津波高もお示ししておりますので、皆さんがお住まいの付近ということで、(マップには9.8mと)表記されているのかなと思います。ここ(振興計画p3)は、牟岐町の海岸線沿いで一番高いところを表記しています。

[局長]

それとあと2点、36ページの安全・安心、並びに「#8000」に並んで、という話については、このあといただきます意見とあわせて、事務局で検討させていただき、必要であれば修正させていただきます。そのほか何かご意見ございませんでしょうか。

[B委員]

資料3の28ページのオ、ストーリーテラーのことが書かれてあるんですが、商品と地域の物語を語り伝えることができるということだと思のですが、これは私たち文化事業にとっても、とても欲しいスキルなので、具体的にどのような形で、例えば研修会だとか、具体的なことを教えてください。

[農林水産部]

ストーリーテラーを推進しているのが、実生ユズの関係です。古くから地域で守り育てられてきたということで、その中には、種を植えてから18年、長時間かかるということがございましたり、通常のユズに比べて香りが高い、そういうことを農業者自らがしっかりと消費者の方々にPRできるようにスキルを身につけていただくということで、グループで研究したり、県としてもそういった物語を作成するに当たって支援をしたり、そういったことをしていきたいと考えています。

[局長]

他に意見等ございませんでしょうか。

[C委員]

資料3、12ページの「子どもや高齢者、障がい者、女性などを支えるシステム」とあるんですけど、わざわざ「女性」という言葉を入れなければいけないのかなと思ながら。こういう時代なので、「弱者」という形で統一してしまってもいいんじゃないかと思いました。

それと、22ページ「国内外に向けた魅力発信の強化」という部分。私たち2013年に日本女性会議を阿南でさせていただいたんですが、それにより徳島県が全国規模でたびたびマスコミなどにも取り上げられるようになったと感じています。そういう意味で、全国会議の促進というのか、そういうことを入れたらどうか、ぜひ検討していただけたらいいなと思います。

[局長]

ありがとうございます。今いただきました、12ページの表記の話と、新たな全国会議の推進については、検討させていただきます。

そのほかご意見ございませんでしょうか。

ないようですので、ここからは、委員の皆様から、圏域の振興全般に対するご意見・ご提言をお聞きしたいと思います。

まず、会場の皆様からお伺いし、続いてWEBでご参加の皆様からお伺いできればと存じます。誠に恐縮でございますが、全員にご発言いただきたいので、お一人当たり2分をお願いできればと思います。

それでは、A委員から、順番にお聞きして参りたいと思いますので、よろしくお願ひします。

[A委員]

先ほどとちょっと重なるんですけど、やはり県立海部病院の周産期医療体制の整備が大事だと思ひ

ます。これには小児科、麻酔科がいるんですけど、今急には無理だと思うので、阿南医療センターとの提携とか、いろいろな方向を検討していただきたいと思います。

もう1点、今、新型コロナのワクチン接種に、住民が目も耳も鋭くなっています。その情報が住民には少ないと思います。このワクチン接種に当たり、牟岐町においても町立病院がないので、県立海部病院に頼らざるを得ないんですけど、しかしながら県立病院のすべてのまかないをしなければいけないきついところもあるので、県の方で海部病院を中心に調整いただき、医師会、町医者、すべての方々が協力してワクチン接種に向かわないとだめだと思いますので、その全体の流れをよろしく願います。

#### [C委員]

東日本大震災から今年で10年ということで、メディアがだいぶ取り上げており、皆さんの中にも新たな思いを持たれた方もおいでだと思います。メディアが騒いでる間は皆その気になるんですが、ちょっと落ち着いてくると意識が薄れてくるんじゃないかと思うので、常に皆で考えていかなければならないと思います。

先日新聞に、非常時の行動指針の中に地方議会のBCPの施策がなっていない、ということが書かれていたんですけど、議会の中でそういうことに積極的に取り組んでもらいたいと思うんです。そういう働きかけを県の方でもしていただけたらいいんじゃないかと思っております。

それと、常に「安全・安心」ということが指針、計画の中に入るんですが、なかなか道路の整備ができていないのではないかと思うんです。ちょっと雨が降ったら川の氾濫によって生活道路がなくなってしまい、結局は人口流出につながると思うので、ぜひ早めに、私もずっと言っているのですが、70年来進まない畑田川の改修、ぜひ進めていただきたい。その辺よろしく願います。

#### [D委員]

日頃は、飯泉知事はじめ徳島県行政の皆様には県内1市4町の商工業者に対し、ひとかたならぬご配慮をいただき、まことにありがとうございます。何よりも現在実施いただいている「新しい生活様式実装推進飲食店応援金」の支給では、瀕死状態の飲食店、宿泊業界にご配慮いただき、心よりお礼申し上げます。

さて、3月に入り県内ではコロナ感染者の発表も若干落ち着きを取り戻したようですが、関東の1都3県はじめ大都市圏では、2回目の緊急事態宣言以降、第3波の感染者数の下げ止まり、また最悪はリバウンドも考えなければならず、収束の糸口が見当たらない状態です。収束には、ワクチンの安全に対する不安払拭と、国民に行き渡る十分な量の確保が課題になってきました。給付金、助成金の支給で事業継続には至っておりますが、今一度経済活動回復に向け、県下中小企業にご注視をお願いしたいと考えております。

今回、2件の要望事項をお願いします。

まず1点として、阿南商工会議所交通部会海運分科会「ふなどころ阿南まちづくり協議会」からの要望事項です。

まず、旧水産高等学校の利活用について。本年2月16日に、尾道海技大学校徳島阿南校では6級海技士(航海)の短期養成が開始されました。内航海運業の船員には、航海士のほかに機関士があります。尾道海技大学校本校及びふなどころ阿南まちづくり協議会では、航海士だけではなく、機関士の養成にも注力していきたいのですが、教材が大きい機関士教習は、講習場所に苦慮しております。そこで、現在使用されていない旧水産高校を利用させていただきたいと考えています。また、同校に保管され

ている教材、備品についても、航海士及び機関士の講習において大変貴重な物があり、ぜひ活用させていただきたいと考えています。

2番目として、徳島県海運振興対策に係る補助金制度の創設について、この場での説明は割愛させていただくので、あらかじめお送りしてある意見概要をご覧ください。

2点目として、商工会議所サービス部会と観光振興対策委員会からの要望です。

四国の右下観光局との観光PR活動に関し、阿南市加茂町において、国の史跡指定を受けている若杉山遺跡、加茂のへんろ道の調査並びに整備を阿南市と地元有志が行っていますが、まだまだ単独では魅力に乏しい点もございます。県のご指導をいただきながら、遍路客の立ち寄り先として、また、マイクロツーリズムの受け皿として整備を熱望しています。観光においては、県南1市4町がひとつとなりと取り組むことが必須と考えているのでPR活動と整備予算の確保において、四国の右下観光局の助言をお願いしたいと考えております。以上です。

#### [E 委員]

先日11日に東日本大震災から10年が経ちました。お亡くなりになった方に哀悼の意を捧げます。

今年はコロナ禍で避難所開設（訓練）がなかなか思いどおりにいきませんでした。3密を避けるために、いろんな工夫をしてきました。今では変異株が発生しています。このようなことから、訓練方法についていろんな点で考えていかなければいけないと思っています。

まず、なかなかできないことは、心の備えをきちんと皆さんに周知していこうと、それが第一と考えています。南海トラフ大地震で、全国最大の34mの津波が想定される高知県黒潮町の浸水対策は、高台に宅地開発を行っていると聞きました。徳島県では美波町が20mの水深、両方とも県下一ということで、黒潮町との連携をずっとやっておりますので、これから両町がいろいろと考えて進んでいこうと思うので、これからもよろしくお願ひします。

#### [F 委員]

今、阿南市と阿南高専の連携事業における阿南市の生物多様性保全活用事業を担当しております。そういった自然・生物多様性といった観点から発言させていただきます。

徳島県の南部圏域には、世界に誇れる自然資源や地域色豊かな文化資源があります。これらは地元の方々の暮らしや、中で支えられて育まれてきているものです。私たちは今これらがあって当たり前だという中で、こういった施策や取組が位置づけられています。けれど今、世界が未だかつてない危機的状況にあって、環境省等々大きなパラダイムシフトが求められる中で、当たり前と思っている豊かな自然が、放っておけばおそらなくなってしまう。気候変動やエネルギーの施策によって、豊かな自然はほんとうにあつという間になくなってしまうと危惧しています。

これらの今当たり前だと思っている豊かな自然をどういう風に持続可能にしていくかということは、県南城にとってとても重要だと考えており、今、人口減少が逼迫する課題になっていますが、おそらくこの県南の自然を守ることが、将来人を呼ぶ、人がここを選ぶ理由になってくるんだろうなと考えています。

豊かな自然や生態系のネットワークというのは、市町村ごとにやるものではなく、これこそ広域的なつながりの中で保全され、活用されるべきだと思っています。ですので、広域で、戦略的に、どこを守り、どう活用していくか、ということ、ぜひ今度検討させていただきたいと思っています。

#### [G 委員]

観光業に携わる身として、基本戦略2のマクロツーリズムの強化、新しい旅行者のニーズに合わせた誘客促進、この辺りについてのお話になるのですが、現在観光業界では、ご存じのとおり、コロナウイルスの影響で大変苦しい状況となっております。もみじ川温泉としても、昨年2月末頃から影響が出始め、昨年3月・4月は壊滅的な状況でした。5月は完全に閉館しまして、6月から営業開始しましたが、現在までなかなか厳しい状況が続いています。その中で、県の助成事業「とくしま応援割」には非常に助けていただいています。GoToトラベル事業が昨年12月から完全にストップしている中、徳島県内の方が徳島で観光や宿泊を楽しむ、施設側は細心の注意を払って、原点回帰ではありませんが、マイクロツーリズム、観光業の向かう方向に宿泊助成を出していただけるのは、非常にありがたいと思っています。ほかの県ではここまで思い切った助成を出しているところはないようです。

それと、今までより考える時間が増えました。新しい生活様式に合わせてどういった観光が望まれるのか、どういったことが可能なのか。その中でも我々の町では、これからやっていく方向としては、キャンプやアウトドア、山での体験、さらには地元の食に絞って、これから進む方向を考えています。

マイクロツーリズムを完成させるに当たって、環境面、ハード面を整えるのも非常に大事なことで、正直、一番重要なのはそれに関わる人だと思っています。過疎化が進む那賀町では、IターンやUターンしてきてもなかなか仕事がないという声を聞きます。そして、現在コロナの影響もあり、都市部で仕事を探しているという声を聞いたりしますので、思い切りが必要ですが、このピンチの状況を、移住者を増やすチャンスだとも思っています。過疎地で新しいことを始めるにはマンパワーが必要だと思いますし、ただ、働いてくれる方に十分満足な報酬をお渡しするのも難しいのが現状です。そこで、移住と仕事と生活の助成をセットにして移住者募集のような、思い切った大胆な施策を打っていただいたら、面白いこともできるんじゃないかなと思っています。

最後に、我々としては、スマート回廊、あじさいダム湖で仕事させていただくに当たって、アクティビティの面で、今年は桜の時期のカヌー体験を考えています。こういったことも企業局と連動し、これから田舎での観光の進むべき方向だと思っているので、こういったところでもっと連携して、県南の観光をもっと盛り上げていければと思っているので、どうぞよろしく願いいたします。

#### [B委員]

まず、徳島市の文化センターが動き出したのが一安心です。駅に直結するという点でも話題性があるかなと思いました。そこで思い出した言葉があります。吉田秀和さんという昔の音楽評論家なのですが、大阪の厚生年金会館について書かれてあったので、地元なのでよく覚えているんですけど。大阪の厚生年金会館は駅まで少し歩くんですね。お芝居がはけて、その歩く間に皆が同じような、似たような暖かい感慨を持ちながら駅まで歩いて行くんだな、その中に私もいるんだな、ということがとてもいい感じがして、大阪の人はとてもいいホールを持っている、ということだったんです。

すぐ駅を使うか、徳島駅まで歩くかは、皆さんが状況の中で判断されることだと思うのですが、だいぶ昔、文化センターから駅まで歩く間、ちょっと寂しいような気がしましたので、なにか歩きやすい物もあれば、より魅力がアップするんじゃないかなと、吉田秀和さんの言葉を思い出しながら思いました。

外国からのお客様は考えられない状況にあると思うのですが、日本語に苦労している子ども達は、外国から人が来なくなったとはいえやはりいまして、県教委が主体となって子ども達を支援するという施策がとられているとは思いますが、まだまだ薄くて、子ども達へ向けた日本語指導や取り出し授業がもう少し厚くならないかなと思っています。

2020年度の文化事業の様子なんですけれど、阿南では4月18日から5月14日までと8月8日から31日ま

で、会館によっては9月中頃まで、公共施設が利用することができませんでした。阿南市内では私たちは文化事業では託児室を開設しているのですが、子ども達を預かるのもなかなか大変だったので、今もまだ文化事業での託児室は開設していません。0歳から入場できる子どものための音楽会も、6年続けていますが、0歳のハイハイや歩き始めの子ども達がとても危なく、大人が追いかけていくということがまた危ないので、今は3歳からのみで行っています。

県外からの出演者、大勢のアンサンブルというのも問題があったので、中止、延期、出演者へのキャンセルが続きました。チラシ等の準備も進めていたので、損失も発生しています。県内在住の奏者に替えて急遽企画を組み直して、7月にワークショップと演奏会を1つ行うことができました。そのあと10月と11月から入場者数の制限はありますが、動き出しています。これは会館のスタッフの方達が換気や空気の流れ方を研究してくださり、開催への支援をとめてくださったので、割とスムーズに動いてきております。

今日もチラシを持ってきたんですが、紙媒体の広報はとても難しく、SNSやWEBでの予約、チケットレスも進めています。YouTubeも去年8月からチャンネルを開設して始めました。私たちのような小さい市民団体もけっこうYouTubeを始めて、どんどんネット利用を進めているようです。まだ会館にWi-Fiが飛んでいないので、なんとかならないのかなというのも心配ではあります。

もう1つ、毎年アウトリーチ事業、小学校の音楽室への演奏家派遣も行っていますが、コロナで受けしてもらえないのでは、と心配しましたが、学校の授業がなくなって子ども達の思い出づくりができないとの要望もいただき、6事業行うことができました。学習の面でもネットでできることが増えているようですし、知識は検索すれば誰でもどこでも分かってしまうので、今例えば高校や大学の入試では、知識より主体性、創造性、調整力が測られるようになってきているそうです。受験会場で、レゴで何かを作りなさい、という出題もあったそうです。さらに平田オリザさんが日本に紹介されたのですが、地方で暮らしてはなかなか身につけることができにくい「身体的文化資本」という言葉も出てくるようになりました。都会と私たち地方では、文化の格差は本当に目を覆うばかりだと思います。けれど、そこでなんとか子ども達に文化に出会う機会を作ろうと、考えているところです。例えば、そろそろ私たちの計画に上がってきているところですが、小中学生が市民の財産であるホールへ一度入ったことがあるという状況を作り出したくて、動き始めています。そこであわ文化創造支援補助金の申請を考えたのですが、対象事業が6月1日からになっており、4・5月の事業ができないという状況があるので、これはなぜでしょうか、というのを今日は聞いて帰りたいと思いました。

先日、平田オリザさんがのリモートでの講演会が商工会議所主催で行われました。経済と文化というキーワードがなんとか結びついていく兆しが見えてきたので、私たちも視野を広げてできることを広げていきたいと思いました。

#### [H委員]

資料3第2章4の課題にもあるように、最近、シカの食害による自然植生などの被害が大きな問題となっています。私は毎週日曜日に登山をしています。昨日も7時間歩いてきましたが、その都度思うことは、希少種のサワダモミとかそういう大事な木が大きな被害を受けております。天神丸とか1300、1500、1800（m級の）、剣山の山系までの山々で、本当に荒廃しております。ぜひ学識経験者、いろんな方の視察等いただいて、早急に調査する必要があるのではなからうかと思えます。いずれは大きな災害の可能性が、もう見えておりますから、警告をしておきたいと思えます。

それと、今年も暖冬でした。193号線は3月いっぱい通行止めになっております。知事におかれても、なかなか、と思う気もあろうと思えますけど、できるだけ早く、明日からでもいいです、通行止めの

解除を要望いたしまして、私の意見といたします。

[ I 委員 ]

まずはコロナに関して。去年の今頃は、1年たったらどうにかなっているかな、ということだったんですが、まだまだで、国や県、業種によったら補助をいただいているんですが、5年後の自分たちが見えないというような、暗い気持ちがあるような業種もございます。そんな中で、小さな行事、イベントもすぐに中止にする。実行委員会でも多数決取ればすぐ中止、という傾向があり、昔だったらどうしたらできるかをまず考えてから中止を決めるのが、東京とかと徳島や田舎の方は（感染状況が）違うのに、なぜだかテレビではほとんどが中止、中止なので、残念ながら鯉まつりも今年中止と決まったんです。昔だったら、青年達がどうしたらできるか、という風があったんですけど、その風さえもなくなっているのが非常につらく感じています。もしコロナが収束したらやってみたい事業案みたいなのを募集するような期間を設けていただいて、若者や各種団体に夢を与えてもらえるような、風を巻き返すようなきっかけをいただけたらな、という案が1点です。

それと、県南の観光に関して。四国の右下観光局のスタッフの方と協力しては、と前回申しましたところ、協力いただいたスタッフの皆さん非常にいろんな引き出しを持っており、企画したことが実行され、回廊するような段階にまでなっているすごい団体なので、もっと四国の右下観光局というのがあるということ、広報、周知すればいいと思います。

私は阿南市でも西の方なんですけど、豊かな自然と豊かな食がキーワードのように思い、ぱっと見たときやはり那賀川が魅力かなと思ったところ、SUPを那賀川ですてくれる事業が5月くらいに試しであるということで、非常にうれしく思っています。以前鯉まつりをしていた辺りは、先ほど話もあつたように、加茂の宮前遺跡、深瀬遺跡、若杉山遺跡と、国指定にまでなった史跡があり、ですが、加茂の宮前遺跡はちょうど住民が望んでいた土手を造っていただいて、埋めてしまうので、欲張りではありますが、その歴史も残さなければいけないという思いが住民にはあります。地元で立ち上げた加茂の宮前遺跡保全連絡協議会という団体があり、現在整備中の堤防の上に、加茂の宮前遺跡があった位置に、遺跡の概要と位置図、遺跡の全容写真を記した看板を設置していただくよう、要望をすでにしているようなんです。そしてら国・県・市とで実現できるよう動いてくださっているということで、うれしく思っているのですが、来年3月に土手ができるということなので、できればそれに合わせてその看板ができれば、観光への新しいきっかけになるように思うので、お願いいたします。

それと、Wi-Fi云々という話が出てまして、資料3の23ページに「無料Wi-Fi環境を促進します」ということなので、そういうのもコロナが明けた暁に、田舎に行っても大丈夫、県南に行っても大丈夫というような働きかけがもっといるように思います。

続いて、過疎地の交通手段についてですが、地元以北岸のバスがなくなり、岡山県の事例を試すという形で、元気な60から70歳までの運転できる方が手を挙げて、そのバスの代わりに介護保険を使ってできるシステムをしているんですが、運転に手を挙げてくれた人のほとんどが、軽トラしか持っていないので、車両の確保が問題です。できれば阿南市や県の軽の公用車をお試し期間の間に提供していただけるようご検討をお願いしたいと、地元の実行委員会から一言言ってくるよう頼まれたので、お願いいたします。

次は道に関してです。主要地方道阿南小松島線の改良を進めていただけるということで、本当にありがとうございます。那賀町へ抜ける道は、黒河バイパスを通っての道が経済の道だと思っています。途中反対した人も、皆がOKにつなげるように力を入れて、そういう人もないよということ、よろしくお願いいたします。



最後に、去年スタチを作っている青年から、もう出荷するということにコロナで、スタチが全然売れなくて、何百万も燃料費がかかったんですけど、本当にひとつも売れなかったんです。飯泉知事は最近全国ネットのテレビに出ているので、スタチの宣伝をしっかりとさせていただきたいとお願いして、意見とさせていただきます。

[局長]

ありがとうございました。

それでは、WEBでお待ちいただいていますJ委員、お願いします。

[J委員]

3点申し上げます。

まず1点目、災害の観点でございます。東日本大震災から10年という節目を迎えて、実は今日0時6分に和歌山県では最大震度5、徳島では震度1（の地震）がありました。南部圏域における災害時の避難所運営のコロナ対策について、これからもしっかりとした予防対策を講じたソフト面、ハード面の両方を、しっかりと県民の皆様への周知徹底を行っていただきたいと考えています。県はフェーズフリーを取り入れてやっていくんだという方向性示していたと思います。フェーズフリー、平時の普段から使っている物やサービスを災害時に使おうというフェーズフリーな考え方、徳島県では鳴門市が先行しています。そういった考えをぜひとも南部圏域にも広めていただきたいと思っています。

それともう1点は資料2の3の1、基本戦略1にも書いていただきましたが、家庭で学べる防災。また、家族継続計画FCPの分野もしっかりと事業という視点で入れていただきたいと思っています。

災害に対してはこれからも気を緩めずに、コロナ対策と同時で行っていただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

それと防災に関しては、防災にデジタルを加えた施策の方向というのも、私は考えています。また担当の方とセッションを持ちたいを思います。

2点目は世界初となるDMV。私はずっと言っています。いよいよ開業かと考えています。そのために今「菜の花プロジェクト」といって写真を撮って送ったりとか、いろいろSNS等拝見しています。また飯泉知事におかれては、「みぎアゲTV」にも出演されていまして、私その動画見ました。むちゃくちゃ楽しそうでした。そういったPR戦略、引き続きSNSを活用して、このみぎアゲTVとか先ほどYouTubeの話も出ていましたが、やはりこれからの時代こういった戦略も大事であろうと考えていますので、引き続き進めていただければと思います。特にこのみぎアゲTV、次「防災」を（テーマに）するときに必ず私を呼んでください。出演オファーを逆におきますので、お願いいたします。

最後にもう1点だけ。県南部におけるワーケーションですね。ワーケーションについて、コロナ下であっても県外へ向けての誘致やPR、取組や今後の戦略、どうするのかというのをしっかりとお示しいただければと思っております。先般、このワーケーション、地元にある新野シームレス民泊推進協議会でも関西本部と色々なやりとりをしていると同時に、3月21日に平等寺で「アニマルシェ」というイベントを企画しています。先ほどもお話ありましたが、コロナだからできないよ、じゃなくて、どうにかしたらできるんじゃないか、という視点は、これから経済を支える上で必要だと考えています。昨日もニューノーマル徳島映画祭、大変楽しんでまいりました。できること、対策してもできないこと、できないことはできないし、だけど「できる経済」を「掛ける」という視点は、これからの長い目で見たコロナ禍を生き抜くためには必要であろうと考えていますので、ぜひとも今申し上げた3点について、施策の中で進めていただければと考えております。

#### [K委員]

移住に関してお話しいたします。昨日土日2日間にわたって、日本最大の移住フェアがあるはずだったんですけど、それがオンライン開催になりました。オンラインになったということは、徳島にとっては弱点なんですよね。リアルな移住フェアですと、歩いている方を勧誘して、100組以上の方とお話しできたんですけど、オンラインの弱点は、徳島を名指しで入ってきていただかないと来てくれないという点です。だから2日間で7町村出たんですけど、まあなんと、ゼロのところもあります。(相談者数が)5分の1という最悪の事態を招いています。オンラインでおそらくは今年の夏、いやまだまだ続くと思っているので、ぜひこの点を県の方でも注意深くやっていただかないといけないと思っています。

で、「サテライト」と書かれてるんですけど、もうすでにリモートワークされる方は全国どこにでもいらっしやってみて、徳島ゆかりの方、特にUターン、ゆかりの方が(来たいと)言うてくださるんです。ゆかりの方でないと徳島は来てくださらないので、ゆかりの方を呼ぶシステムをぜひ作っていかないといけないんです。サテライトもいいんですけど、リモートワーク。フルリモートができる徳島、それで選んでいただけるようなIT環境をさらに進めていかないと、全国に遅れていく一方だと私は思っていて、恐怖を感じています。いらっしやってるのはいらっしやってるのでね。油断なく。

オンラインで移住を決めるということは、なかなか難しいです。生の空き家を見ていただく、住居、生活環境をやはり生で見えていただかないと、いくらひとりひとりオンラインで一生涯懸命お話ししても、なかなか決定打にはなりません。ですから、早くリアルで行かないと、徳島としては弱いなと思っています。

それから最後に、県のシステムに「シラサギ」というのがあるんですけど、移住に関してですが、非常に使いづらいんです。固定の機械、それからものすごいセキュリティがかかっていますので、移住のことで言うと、データ送信がとても重要で、外部の施設等が使えないんですよね。県等以外は。それができる限り早くどうかしていただきたいなと思っていますので、今後オンラインで頑張りますけれど、環境を整えることをよろしくお願いします。

#### [L委員]

まずは徳島県の皆さん、コロナウイルスに懸命に対処くださっていること、心より感謝申し上げます。私からは3点ほどお話しさせていただきます。

私はプロサーファーでもあり、日本サーフィン連盟の理事もしています。スポーツツーリズムに関してなんですけど、もちろんコロナであったり、自然災害との兼ね合いはあると思うんですが、私自身、仕事の都合で今千葉県にいるんですけど、緊急事態宣言下で、普通に行けていた海でサーフィンができないという状況となり、私にとっての海の重要さだったり、自然の中でスポーツすることの人生におけるの重さを感じた経験となりました。そういう経験を受けて、アウトドアスポーツや自然の中で過ごす時間というのは、多くの人にとって癒やし効果であったり、コロナ下だからこそ皆さん癒やしや心の平穏を望むという傾向はあると思うので、それを魅力として発信できるというのは、徳島県の大きな強みだと改めて感じています。

このコロナ下だからこそ、もちろん安全・安心の対策はした上で、スポーツツーリズムであったり、サーフィンのみならずスポーツ大会の開催というのは、規模の縮小などはあると思いますが、それが地域の活力になったり、頑張ろうという前向きな姿勢を生む効果を発揮すると信じていますので、ワールドマスターズゲームズもありませんし、そこに向けて、私ももちろん、県の皆さんも一緒になって

進めるようにしていきたいなと思っています。

2点目、移住、人材育成について。資料にもある「SNSを活用した移住情報の発信」を、コロナ禍で行き来ができない中、すごく重要性が認められているように思うので、ぜひ着手していただきたいなと思っています。

私は在学中に徳島大学サーフィン部を立ち上げたのですが、今も30名弱で活動を続けてくれています。彼らを見ていると、ほとんどが県外から来ている学生で、彼らはサーフィンという経験を通して、徳島県の自然の魅力に魅了されて、大学で卒業する予定が大学院まで行くような、そういう意思決定に関与したり。そんな学生を見ているので、彼らは県外から来て、徳島に魅了されて、もしかしたら今後徳島で働くかもしれないですし、徳島の魅力をもしかしたら県民のだれかよりも知っているような、すごく貴重な存在だと私は見ていて、実感する機会がすごく多いです。

なので、そういう県の魅力を知っている学生であったり、常に徳島魅力を発信している若い子の声をどんどん吸収していくということは、徳島県にとっても、今後人材流出を防ぐ大きなヒントになるかも、という風に感じています。

資料の中で「四国の右下ファン」という言葉がすごく気に入ったんですけど、外からファンを増やすということはもちろんですが、こういった大学生の彼らであったり、もうすでに魅力を知っている人たちが発信できる場を持つということも、ひとつおもしろい可能性がある取組ではないかなと考えています。

3点目は、資料のキーワードとして感じたのは、自然環境、自然エネルギー、自然保護。世界中でもその流れがありますが、自然をどう活用したり守ったりというところが、政策に与える影響が今後どんどん大きくなっていくと感じています。何度も申し上げているように徳島県の自然は本当に大きな魅力だと思っているので、その魅力をまず中の人理解して、そして自分達で守っていきいたいと思うような再生意識の醸成、私自身サーフィンを通してそういった意識の醸成の一助になればと思っています。県の皆さんともいろいろご協力をいただきながら、サーフィンや自然を通じて、子ども達や地元の人に徳島県をより愛してもらって、中からもっとファンを増やしていくよう取り組んでいければと考えています。

#### [M委員]

今回私は18ページ以降の「健康寿命延伸」に向けてフレイル対策ということで、展開していきたいことを述べさせていただきます。

先ほどから徳島県の強み、というお話が出てるんですが、人口が少ないということで、ひとりひとり個人に対して大切に、充実したサポートができる。そして個人個人を把握しながら人を大切にするというのが、魅力で強みなんじゃないかと思うんです。私も実は海陽町に来たときに手厚いサービスにびっくりしたことがあります。こういったことを強みにして、徳島の行動計画に目指すべき10年後の姿というのがありまして、運動習慣の定着を目指すとあります。県内には36施設の地域総合型スポーツクラブがあるので、それをぜひ活用していただければ、と思います。

その提案として、もちろんクラブを利用してもらおうというのは当たり前なので、その先、一歩進んだところということで、まず1つ目。地域の老人会やサロンを把握している社会福祉協議会や包括支援センターと連携して、高齢者の運動習慣の派遣。前回知事も地域の介護施設で健康にぎわいの場の実施をしようということで、進めていってくださいという話があったのですが、さらにこれにプラス、また進めていくということで、定期的に、施設に来てもらうのではなくその地域まで行って運動指導、出向いて出張指導をするというシステムを各市町村ができるように、県もサポートしていただきたい

なというのが1点です。

2つ目は、今会場にもおられる、働き盛りの若い世代の方々にも運動習慣のアプローチ。実はここにいらっしゃる方で運動を習慣にしているという方がどれくらいいらっしゃるのかな、と思ったりもするんですけど、例えば特定健診の結果説明時に、保健師さんと一緒に健康指導士が同行して生活習慣と運動習慣の見直しを図れるような提案をし、その後もフォローする継続的なシステム作りをしていくというのが大切なんじゃないかと思います。検診時の自分の数値を見たときの動機付けが、一番いい効果になるんじゃないか、有効になるんじゃないかなと思います。そして数値の高かった人、メタボの人に関しては、総合型のクラブを使つての運動処方とか、継続した運動支援なんかをやって、経過観察を行う流れを作っていくってはどうかなと考えました。

実は海陽町、私どもはこのような事業を数年前からやらせていただいています。他の地域にも広がっていけばいいなど、いつも思いながら仕事していたので、こういった提案をさせていただきます。ただ、クラブによってはそういったサービスができないところもあるので、保健師さんが各市町村におられると思うので、そういう方が、運動経験がなくてもできるものがあるんです。今年度から始まった健康ポイントアプリ、徳島県の「テクとく」。こういったものを検診時に活用したら、実際クラブに通ったり運動できないという方でも、習慣づくりに役立つと思います。私も知ってたんですけど、なかなかこのアプリを活用できなかったんですけど、来年度はこのアプリを使って、クラブで継続的に楽しく運動していただく仕組みを考えています。ぜひ10年後のプランに向けて、今一度具体的な、ぼやとしたのではなくて具体的にひとつひとつ取組を考えながら、推進していけたらなど、そしてそのお手伝いをさせていただけたらなどと思います。

最後に、やはり海陽町といえばDMV。急ピッチで進んでいるんですけど、クラブとしてもスポーツツーリズムということで、コロナ禍だったので今年はモニターツアーとして、旅行業者や四国の右下観光局の方々にモニターになってもらい、ツーリズム体験をしていただきました。夏や秋のマリンレジャーは海陽町でもたくさんコンテンツがあるんですが、秋冬の時期にどういったことをするかということで、いろんな滞在型の、ヨガを山奥でするとかそういったことを企画して実施しました。コンテンツ自体は楽しめるんですけど、やはりここまで来る交通の手段が不便だという方がほとんどだったんですけど、それを払拭するくらいに頑張っ、海陽町にまた行きたいと思ってもらえるようなプログラムづくりを、これからもクラブとして手伝いながら、企画していけたらなどと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

[局長]

ありがとうございました。本日は管内の市長、町長様にご出席賜っておりますので、ご発言お願いしたいと思います。最初に、表原阿南市長様お願いします。

[表原 阿南市長]

このような機会を持たせていただいたことにまずは感謝申し上げます。

私の方では特に何か手元に持ってきたわけではないんですけど、今皆様方からいただいたご意見の中で、広域行政における役割分担といったものはしっかり考えていかなければならないのかな、と。ですので、いただいた意見の中で、自治体行政として取り組んでいくことと、県行政の中で得意とする分野と、そこはしっかり分けて考えていかないと、それぞれにリソース：お金、人材、時間が限られている中で、重複は避けて、選択と集中といったところの相乗効果に繋げていく必要がある、ということに改めて考えさせられるところがありました。

皆様からいただいたご意見、阿南に関連する部分に関しては持ち帰らせていただいて、令和3年度から阿南市の新しい総合計画の実行に向けて動き出すこととなりますので、それに活かしてまいりたいと思います。

[坂口 那賀町長]

私からは2点ほどお願いしたいと思います。

まず人口減少対策の関連。資料3にも書いておるとおり、農林業の振興の関係で、農業についても人口減少の影響が担い手不足という関係でございまして、那賀町では総務省の地域商社設立事業の交付金をいただいて、今協議を進めています。令和3年度の早いうちに設立しようということで、農については切り花が、この28ページにもあるようにケイトウ含めて多く生産されています。市場価値がなくて出荷できない物の販売をする、また、番茶の製造販売等もあわせてする農業関係の商社。

それから林業については、建設業等も含め森林組合等の事業体が今林業に携わっていただいているのですが、事業体にとっては、伐採、搬出、原木の供給に人手が足りないくらいで、植林、造林までなかなか手が回らない、というのが現実なんです。そういったことから、植林、造林、また有害鳥獣防止柵の設置とか、そういった形の商社を林業では創っていこうと今計画していますので、またその点ご支援お願いしたいということ。

2点目は、災害対策の関連。これについても、2050年温室効果ガスのゼロを目指すとか、2030年にガソリン車ゼロ、という国からのお話がございまして。そういった中で、HVやPHV、FCVそういう車が多くなると想定されると、那賀町のような過疎地のガソリンスタンドを運営されている方が、非常に不安を持っています。先行きはどうなるんだ、と。

そういった中、先般県の方で移動式の給油車を災害用に準備したという話もございましたが、那賀町としては経産省と消防庁にお願いして、地上タンクとタンクローリーから直接給油できる。那賀町のような広いところでは、大規模災害時に上流地域のスタンドにガソリンを供給できないという状況に陥るのは目に見えています。災害が起こらない役場の本庁舎辺りにそういった施設を整備していただき、いざというときそのタンクローリーで給油に行こうという形を今進めています。これには消防庁にいろいろご尽力いただいて、近々に規制緩和になるという話も聞いておりますので、今準備を進めているところです。

それから、もう1つ。那賀町は平成19年に自然エネルギーのビジョンを策定しています。その中で、風力、水力、木質、バイオがあるんですが、風力・水力は小規模で、主は木質でいこうという計画をしておりますので、また、いろいろと議会の動きもございまして。その点、御協力よろしくお願いしたいと思います。

[影治 美波町長]

13名の委員の皆様からお話を聞かせていただいて、内容としては、今はコロナの時代ということがありますので、コロナに包まれた中で防災であるとか県南の観光振興といったことに皆様から御提言いただいているな、と感じました。

私も県に対しては、今はWITHコロナの時代でありますから、しっかりと収束に向けて、徳島県は幸い少ないかなと思いますけど、全国的な収束に向けてしっかりやっついていかないと、県民、市町村民の意識も晴れないというところがありますから、それをしっかりとやっついていただく中で、アフターコロナを見据えて、私たち市町村もしっかり取り組んでまいりますので、環境整備的なものをしっかりと仕込んでおくことが大事ではないかと思っています。

環境整備って何だろう、私たちに何ができるだろうと考えますと、今はインバウンドがほとんどありません。ですが、インバウンドがやがて増えてくるということを想定し、この県南で何ができるか、というような視点で準備をしていくことも大事だと思っております。

それと大きな流れで、コロナで私たちにアドバンテージがあるなと感じたのは、今回多くの国民の方が、都市圏は過密でこういった災害に弱い、ということが分かったと思いますし、過疎が見直されているということもあろうかと思えます。そういったところで、移住であったり、まずは関係人口を増やすというようなところから始まって、(コロナが)終わったときには一気に来ていただけるような、そんなことを考えながらやっていけたらな、と思います。いろいろご指導いただきながら、それぞれ連携して頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

#### [三浦 海陽町長]

先ほど、健康寿命を延ばすフレイル対策についてというお話があったんですけど、海陽町ではMさんがいつも各公民館で高齢者に運動指導やいきいき百歳体操とか、総合検診の結果によって保健師指導に加えて総合型地域スポーツクラブの利用券を配布したり、いろいろときっかけづくりをいただいているところです。その中で、海陽町は男性の健康寿命の自立期間平均が県平均79.1%よりも3%も低いということが課題になっています。都市部と比べて1次産業とか個人事業主が多いということで、会社員は人間ドックとか定期的に検診を受けているのですが、なかなか若い男性に健診を受けていただけないというところがあり、その辺り総合スポーツクラブと連携し、なんとかやっていきたいと考えておまして、県とともに協力してやっていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それから、いろんな方からコロナ禍でいろんなイベントが中止になってしまっているということで、自分も、やはりできない理由を考えるよりやれる方法をしっかり考えて、コロナ下で形を変えてでもやっていけたらなと思っております。昨年10月には、いつもやっている映画上映ができないということで、ドライブインシアターでやってみよう。けっこう盛況だったので、例えば外でカラオケ大会をして、ドライブインで、拍手はハザードでというようなことができないかなど。そして風流マラソンを今年はリモートで開催しました。課題もあったんですが、すごく新しい発見というか、いつもは「40kmもなかなかよう走らんわ」という人が今回参加していただき、また「来年も、リアルもやってほしいけど、リモートもやってね」という話もあったので、すごく前向きに新しいやり方というものできております。特にDMVなんですけど、7月に運行予定ということで今動いておまして、コロナがどこまで続くか分かりませんが、WITHコロナで成功できるようにいろんな想定をして町もやっていきたいと思っておりますので、ぜひ県とともにいろんな形で、コロナに負けずにどンドン地域を盛り上げていきたいと思っておりますので、ぜひご協力よろしくお願いいたします。

もう1点、先ほど那賀町長さんからもお話ありましたけれど、風力の話なんですけど、那賀町としてしっかりタッグを組んでやっていきたいと思っておりますので、ぜひご協力よろしくお願いいたします。

#### [枘富 牟岐町長]

令和2年度からアワビのえさとなる藻場について、徳島県のご協力により牟岐川をはじめ沿岸部の定期的な栄養塩の濃度測定をいただいておりますこと、本当にありがたく存じます。これまでの栄養塩の濃度の数値、資料等ございませんので、これから5年間という調査でデータの積み重ねが必要です。これにより、科学的根拠に基づく調査結果が出て、アラメやカジメの育成の促進が図られますよう、引き続き藻場の再生にご協力よろしくお願い申し上げます。

また、県工事で大変お世話になっております。牟岐漁港の防波堤工事、牟岐川、内妻川の河川工事、天神前急傾斜地崩壊対策工事、内妻地区海岸の堤防工事。中でも牟岐川の河川掘削工事は、地域住民の方々が洪水の時決壊するんでないかという危惧もあり、引き続き県に続けていただけますよう、という旨の要望もいただいています。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

そしてまた、重清県議の質問に知事がご答弁されていた、カイクフ・アフターコロナ・ハッカソン。これがこんなに早く開催に向けて進めていただいているのは、本当にびっくりいたしました。県南の核になるという知事の熱い思いも感じていますので、町としても協力していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

[局長]

ありがとうございました。最後に、飯泉知事からお願いします。

[知事]

どうも皆様方ありがとうございました。それぞれのお立場で、WITHコロナ時代における様々な状況、また、それに対するアフターコロナを俯瞰した様々な展開についてもお話しいただいたところでもありますので、いくつか私からまとめてご回答申し上げたいと思っております。

まずA委員から、おそらくここにおられる方、県民の多くの皆様方の関心事、ワクチン接種がどのように進んでいくのか、ということで、なるべく前広に情報提供してもらいたいというお話がありました。

これにつきましては、今のところファイザーのワクチンのみ、ということになっておりまして、日本で作っているものではないので、例えばヨーロッパの輸出規制があって、当初予定していたものが突然遅れてくるということがあったり、オーストラリアの場合にはイタリアが止めてしまったから入ってこない、こうしたことが今世界中で起こっています。

そうした中、2月17日から、まずは国立病院機構など3つのいわゆる国の病院ですね、ここで医療従事者の方の先行接種がスタートを切りました。これについては、副反応がどんな形で出るのか、日頃の皮下注射ではなく筋肉注射がスムーズにどのようにいくのか、こうしたことをまずはテストパターンとして行ってみよう。そして3月から行われる医療従事者の優先接種へつないでいく。しかしここで河野担当大臣ができたので、早速全国知事会としては、やはり先行接種だけではなくて、日々医療従事者の皆様方はコロナ患者さん、あるいはコロナと立ち向かっていただいているわけですので、一日も早く医療従事者の皆様方に優先接種を行っていただきたいと申し上げた結果、じゃあ先行接種で余るものを優先的に回しましょうと。3月1日の週、当初は3月中旬からと言っていたのですが、各都道府県に送るということになり、徳島県には3月4日に、まず届いたところ。これを県立中央病院から、いわゆる基本型施設から中心に。あるいは入院受入医療機関で頑張らせていただいている皆様方、さらにはコロナ患者さん達を搬送する可能性が高い救急隊の皆様方、これを最優先で行わせていただき、そしてその後それに次順位としておこなっていく。まだ医療従事者の方全員にということにはなっていないんですが、すでに4分の1を超える皆様方に接種が終わったところです。

そして、あと最大の関心事は、高齢者の皆さん方の優先接種がどうなるかということで、この点についてはなかなか情報が、「4月」ということだけが合ったわけ。2度におたる市町村長の皆さん方との会議を開催し、先般ようやく国からの配分が決まったので、こちらについて情報連携、さらにはどんな順番で、どんな考え方で、それぞれの市町村の皆さん方にワクチンをお届けするのか、こうした点を説明させていただいたところです。

では、どんな形になったのか。まずは十分な量のワクチンが日本にあるわけではないんですね。ということで、数限りあるワクチンを有効に使っていかうということで、まずは4月5日の週に2箱。実は、人口もあるですけど、東京、神奈川、大阪が人口が多い3つなんですね。ここには他のところの倍の箱を、そしてそれ以外は皆同じということで22箱、今言った3つは44箱、届けられることとなります。そしてまず4月5日の週に2箱。これはまず高齢者人口の多い順にお配りします。1番目は徳島市、2番が阿南市、3番が鳴門市、4番が吉野川市となりますので、まず2箱を優先的に、まず徳島市そして高齢者人口は少ないが隣接する佐那河内村をセットにして。そして阿南市。その1週間後4月12日の週に鳴門市、吉野川市という形で、まずはこの4つを。そしてその後は高齢者比率の高いところ1番から12番までを優先して行うこととなります。本来これで行きますと、今日ここにおられる首長さんのところはすべて行くことになるのですが、実は全県かすべてにまず行かない。4月19日の週10箱分もあるんですね。ということで、同じ郡内がすべて満たされるという形はとらない、という形を取らせていただきます。ということでこの中でまず那賀町、そして次に牟岐町となって、牟岐町と美波町を合わせて1箱。そして本来なら海陽町が次に来るんですが、そうすると海部郡がすべてということになって、西の方や板野郡が全部を満たすことができないということもありますし、市の方でも後に回る出てくることとなりますので、海陽町の皆様方には大変申し訳ないのですが、4月19日の週に回っていただくという形を取らせていただきます。そして4月19日の週に残ったところ。さらに徳島市、佐那河内村は数がダントツに多いので、ここにはもう1箱お配りし、全22箱を配り、次の4月26日からの全面高齢者の優先接種へスムーズに対応できるような、いわばテストパターンとさせていただきます、こうした形をとらせていただきたいと思いますと考えております。

こうした形で、まずは高齢者の皆様方の優先接種をなんとか。ただ、多くの市町村長の皆様方から、医療従事者の方の優先接種と一部かぶってしまうんですね。これは切り分けた方がいいのではないかと、これは全国からの意見でもあるわけなんですけど、なかなかこれがうまくいかない部分が、国の都合でありまして、一部かぶるところが4月の中で出てきますが、なるべく医療従事者の皆様方の優先接種を早く終え、そして高齢者の皆様方、全県下でスムーズな接種につなげていければと考えております。

また多く方の関心であるアナフィラキシーをはじめとした副反応について。これは医療従事者の先行接種の中ですでに、あるいは今の医療従事者の方の優先接種の中でも、全国ではある程度の数が出てきているところではありますけど、まだ徳島県では副反応が出ている医療従事者の方はおられません。

ということで、様々のご不満に対しては、県では3月6日からコールセンターを設け、看護師さん、保健師さんベテランの皆様方に24時間対応いただく形をとっております。また、それぞれの市町村においてもその対応をとっていただくこととなっておりますので、こうした点についても関心を持って臨んでいただければと思います。

また、C委員さんから、道路遅れているんでないか、こうしたお話がありましたけど、やはり一番重要となるのは、先ほどI委員からもお話がありましたように、地元の皆さん方に用地でどうぞ協力いただけるか。そして何よりも大きいのは、財源。これは徳島県から全国知事会に提言し、緊急3カ年対策事業となり、平成30、令和元年、2年、なった財源7兆円。こうしたもので徐々に進んだわけですが、今年度で終わってしまう。しかしこれだけ異常気象で大規模災害がある、ということもありますので、これを5年でやるべきではないか、全国知事会長として安倍総理あるいは菅総理へ直接、国・地方協議の場、あるいは政府主催の全国知事会で申し上げたところ、今回は5カ年事業、15兆円となったところでありまして、先ほどお話しができましたなかなかの「開かずの県道」、開かないわけじゃないですけど、北岸線の非常に利便性が高い県道阿南小松島線についても、黒河バイパスはもとより、いよいよ最終難関も用地が地元の皆様のご協力がいただけるということになりましたので、こ



れも行っていくとともに、道路整備はもとよりのこと、これからは河川整備などもしっかりと進めさせていきたいと思います。

また、D委員さんからお話いただきました、内航海運の皆さん方、我々も提言をいただいたところであり、今回晴れて海技大学校ができあがったところということで、旧水産高校の活用を、というお話がありました。我々としても、全面的に海運の皆さん方の技術者養成をしっかりとしていくべきと考えておまして、今実は海技大学校側と、旧水産高校は科技高が所管しておりますので、備品台帳をつくっているところです。積極的にご活用いただくとともに、今ある資源を最大限に活用し、優秀な技術者の皆さん方を続々と徳島から生み出すことができると考えております。

またさらには、若杉山をはじめとする新たな観光資源、文化資源ができていくところでもありますので、つい3月9日も四国遍路の世界遺産に向けて萩生田大臣に提言させていただいたところです。こうしたことも含めしっかりと取組を進めてまいりたいと考えております。

また、F委員さんからは、徳島の今ある自然、これは当たり前ものじゃないんだと。これをいかに守っていくのか。SDGsの発想でもあります。これは先ほどK委員がおっしゃられた、WEBの人の誘致の中で、特色をいかに出していくのか。資源があり、それをいかに発信していくのか。こうした点が大変重要となるところでありますので、リアルだけでは難しい今の時代となったところでは、多くの皆さん方が希求する、例えば地球温暖化対策はその最たるもの、いまではGX、グリーンイノベーション、トランスフォーメーションとも呼んでいるところですので、しっかりとそうしたものも「環境首都とくしま」として、しっかりと打ち出しをさせていただければと考えております。

B委員からは、今度の県立ホールのお話もありました。吉田秀和さんのお話も出たところであり、たしかに文化ホールあるいは美術館は、そこへのアプローチ、脱日常、そうしたものを洗い落とし、そしてそこへ行き、文化に接し、心が洗われ、またその中ですうっとフェードアウトしていわゆる現世に入ってくる、という意味でそのアプローチ道が重要である。山梨県立美術館もそうですし、名だたる所は皆そうした形をとっているわけですが、やはりアプローチとしてもうひとつ、交通の利便性というもの。地球温暖化を考えると、やたら車でもって、というわけにはいかないところがありますので、今後は公共交通機関をいかに使っていくのか。また、人口が高齢化する中で、免許返納の問題にも公共交通をしっかりと維持、そして利便性を高めていく必要がありますので、こうした点もかみ合わせる中で、しっかりと取組を進めてまいります。

そして、最後となりますが、このWITHコロナ時代、多くの事業がみなやめていくという話があります。内村選手が世界体操競技の最後に言った言葉「やめる理由ではなくて、どうやったらやれるのか、ぜひこれを考えてもらいたい」と、東京オリ・パラを含める形で世界に発信されたところでもあります。で、お話があったように、今はなんでもやめる。これはJ委員さんからもお話いただいたところです。そうではなくて、どうやったらやれるのか。しかも、東京であればなかなか難しい、あの感染状況では。累積感染者では全国で4番目に少ない徳島だからこそチャレンジができる。

しかし多くの自粛警察ではありませんが、そうした非難の声もあるわけであり、そうした意味では、例えばあるものを行政が主体で行う場合には、それを支えていただく世論もなくてはならないわけであり、今は何か新しいことをやる、チャレンジした場合には、多くのバッシングが必ず起きます。そうしたものに対して、チャレンジしていくという皆さん方に対しては、しっかりと支える世論も必要です。そうでなければ、このまま日本は終わってしまう。これははっきり申し上げておきたいと思います。そうした中で、今お話があったように、多くの若い皆さん方がチャレンジしようということ全国的にも呼びかけていただいているところでもあります。

徳島としてはそうした声にしっかりと応えしていこう、そしてJ委員からご紹介いただいた徳島

国際映画祭、平成28年3月に西日本最大の地域独自の国際短編映画祭としてスタートを切り、今では徳島国際映画祭として、そして映像文化を創るのであれば徳島からと、多くのクリエイターの皆さん方が徳島回帰をしていただいています。去年は残念ながらコロナで、すべてWEB開催いたしました。今年はWEBでの先行はもとより、ドライブインシアターを使っていこうということで、マリンピアの駐車場を活用し、まずニューノーマル映画祭。頭に「#徳島」これつけないとK委員にしかられますので、徳島のPRをしっかりと、という形で行わさせていただき、翌日は藍場浜公園で朝10時から。今度は夜の帳の活用ではなく、ビジョントラック200インチを2台を活用し、昼間、屋外で映画を楽しむという形をとりました。

これにあわせ徳島青年会議所、東新町商店街の皆さん方がご協力くださり、あるいは阿波銀行株式会社、NTTドコモの皆さん方と連携し、e-スポーツのフェスティバルも開催いたしました。今やe-スポーツ、一昨年の茨城国体の文化プログラムとなるとともに、2022年中国の広州で行われるアジア大会ではリアルスポーツと一緒にに行くにまでなった。競技人口はリアルテニスと同様1億人を超えているわけでありますので、その先進地徳島として、様々な皆さん方とともに進めているところであり、ここでは、今申し上げたようにJC、あるいは徳島商工会議所青年部の皆さん方が、阿波おどりであったり花火であったり、さまざまなイベントをここで一気にニューノーマルな形で行ったところです。

こうした形で、これからは新しい生活様式にしっかりと則る、ここはD委員さんはじめGさんからいただきましたが、さまざまな新しい生活様式を事業者の皆さん方に導入していただく。また特に今回は飲食が緊急事態宣言として中心的に規制をかけられているところですので、徳島の飲食店では安全で安心して食べていただけるように、ということで、このたびは各ガイドラインに沿って認定を受けた、そしてすだちくんのステッカーを貼っていただいたところについては、50万円の支援を、スマートライフ宣言をしていただいたところには10万円の支援を。こうした形で支援させていただいております。とくしま応援割も、かつては5000円でしたが、今回は周遊クーポンを合わせる形で1万円で、3月1日から5月末までまずは支援させていただき、GoToトラベルがいかに復帰できるのか。先般も赤羽大臣が徳島においていただき、意見交換させていただきましたが、しっかりと皆様方の声、そしてなによりもすべての業をしっかりと守っていく、生業を守る、こうした観点で進めていきたいと考えておりますので、ぜひこうした点についても、さまざまな観点、またご提言を賜ればと思います。

今日はさまざまなご提言をいただき、心から感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

(閉会)